

**令和3年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画  
(スクールマネジメントプラン) (実施段階)**

学校経営方針 (中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p><b>教育目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成を図る。</li> <li>・地域に根ざし、地域に愛される「地域の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る。</li> </ul> <p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>2 学習と部活動の高いレベルでの両立</p> <p>3 「探究活動と研究の桂」の推進</p> <p>4 生徒の自主活動の推進</p> <p>5 地域連携や地域貢献のさらなる充実</p>	<p><b>成果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 近隣の小中学校をはじめ、大学や民間機関等との連携において効果的な学習成果と地域貢献を果たすことができた。</li> <li>2 専門学科では、農業クラブの大会が中止となったが、各種コンテストにおいては高い評価を受けることができた。普通科では研究コースにおけるKRPを軸とし、文理コースにおいても探究学習を推進することができた。</li> <li>3 自主自立の校風のもと、生徒会行事の変更や部活動の各大会が中止されたが、創意工夫した活動ができた。</li> <li>4 ウェブを活用した説明会やブログを含む本校ウェブサイトの効果的な活用等により、幅広い広報活動を行うことができた。</li> </ol> <p><b>課題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 専門学科の将来構想(学科改編)と普通科のコース改編</li> <li>2 学習指導要領の改訂を踏まえた「授業改善」「3観点別評価に向けた定期考査等の改善」「評価システムの見直し、構築」</li> <li>3 学校のICT化のさらなる推進</li> </ol>	<p><b>1 特色ある学校づくりの推進</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 専門学科の将来構想の方向性の検討と明確化及び普通科新コースの中学生と保護者への周知</li> <li>(2) 文部科学省事業における特例校指定や民間財団における研究や活動支援を有効に活用したTAFS、KRP等の研究活動の推進</li> <li>(3) 地域連携や地域貢献のさらなる充実と発展</li> </ol> <p><b>2 学習、進路指導</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実</li> <li>(2) 生徒の主体的な学習を促すとともに、知識・技術のみならず、思考力・判断力・表現力や、協働しての課題解決力を高める授業や指導の実践</li> <li>(3) ICTを活用した授業とウェブを活用した学習指導の充実</li> <li>(4) 文武両道の実現を念頭に置いた効果的な指導方法の研究及び環境の整備</li> </ol> <p><b>3 生徒指導</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自主自立の精神のもと、基本的な生活習慣や規律ある学校生活の確立</li> <li>(2) 生活態度や挨拶等の指導による、生徒の社会性を高める指導の推進</li> <li>(3) 自己肯定感を高め、自主的・主体的活動や社会的視野を広める取組の推進と、生徒の「桂プライド」の醸成</li> </ol> <p><b>4 人権教育及び教育相談及び特別支援教育</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の人権意識の向上を図る指導の実施及び人権問題の解決に向けた資質・能力の育成</li> <li>(2) いじめを未然に防止し、組織的に対応できる体制の確立</li> <li>(3) 障害のある生徒への理解の促進と、合理的配慮に基づく対応の充実</li> </ol>

## 令和3年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、活力ある学校運営を行う。	1	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、分掌部長、教科主任を中心とした組織的取組が構築されてきた。教職員の学校運営参画の意識をさらに高めていきたい。</li> <li>・専門学科や特別活動での異校種携等、地域貢献等において、地域の学校としての信頼は得られている。</li> <li>・来年度導入の普通科新コースの研究は来年度も継続して進め、本校の特色化を進めなければならない。</li> <li>・総合的な探究の時間では1, 2年生の基本的スタイルを確立することができたが、教科における探究活動の研究を組織的に進める必要がある。</li> <li>・新学習指導要領に基づく観点別評価の研究を、教科主任会議を通じて進めることができた。</li> <li>・「情報教育推進会議」を中心に一人一台タブレット導入への準備を進めた。来年度は会議構成を改編する時期に来ている。</li> </ul>
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆積極的な情報公開を行うとともに、体験学習や出前授業を実施し、小・中学校との連携をさらに深める。	2	A	A	
	◇専門学科、普通科の特色化を進める。	◆専門学科、普通科新コースの教育内容の検証・研究を組織的に進めていく。	3	B	B	
	◇探究活動等の新学習指導要領の先行実施を組織的に遂行する。	◆教科主任会議をはじめ、各種会議等を組織的に連動させ、探究活動等をさらに推進する。	4	B	B	
			◆令和3年度入学生の教育課程の効果的な実施、令和4年度入学生からの新しい指導要領の円滑な実施に向けての体制を確立する。	5	B	
	◇ICTの効果的な活用の推進	◆「情報教育推進会議」を中心とした校内システムの構築、改善を進める。	6	C	C	
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	7	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを実施し、授業改善に向けての材料とすることができた。公開・研究授業週間は2回実施し、各教科で授業改善に向け情報共有ができた。</li> <li>・授業規律について、年度当初に全教職員が一致した指導ができるよう注意を促した。</li> <li>・令和4年度入学生から実施される3観点での観点別評価に向けて、教科主任会議を中心に検討を重ね準備を行った。</li> <li>・学力向上と希望進路の実現に向けての情報共有について、進路検討会を行った。</li> </ul>
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	8	B		
		◆新しい学習指導要領における観点別評価の実施に向けて研究を進める。	9	B		
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに情報を共有し組織的に取り組む。	10	B	B	

		◆科目選択を適切に行えるよう、担任と各分掌が生徒及び保護者に対する的確な説明をする。	11	B				・科目選択については、学年団の協力も得て混乱なく実施できた。個別の生徒とのやりとりも正確に進めることができた。
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆各教科に対する興味と学習意欲が高められるように、ICTを活用した授業や主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進め、学力の向上を図る。	12	B				・すべての教科でICTを活用して授業を行うことができたが、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善をもう一歩進めていく必要がある。
		◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考査毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	13	B		B		・学習強化週間は形式的なものに終わることなく、実質的な学習効果が表れるように改善する必要がある。
		◆各学年で、生徒の実態を踏まえ、進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	14	B				
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況について教職員、特に学年部ときめ細かな連絡、相談、報告を徹底する。	15	B				・服装、頭髪指導、遅刻指導を年間を通して実施できたが、特に学年部など他分掌との連絡、相談をより密にし、より効果的な指導を実践したい。
		◆生徒指導部および各分掌、教科担当教員が連携を密にとり、授業規律の確立、服装・頭髪指導、遅刻指導にあたる。	16	B		B		
特別活動等	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるよう、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	17	B				・文化祭、体育祭については新型コロナウイルス感染症の感染拡大をうけ、実施することはできなかったが、対策を講じながら昨年度実施できなかった行事を開催したり、新たな文化的行事の計画・実施を図書部、学年部と連携しながら、生徒会が主体となり自主的に取り組むことができた。
		◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭をはじめ、様々な学校行事において全校生徒が自主的・主体的に活動できるようにする。	18	B		B		・部活動加入率については全校で76%と比較的高い加入率を維持している。課題としてきた女子運動部員の入部率についても年度毎に増加傾向となっている。今後は運動系、文化系ともに質的向上をさらに図り、より良い成果が得られることを目指したい。
	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生徒にわたる基礎とする。	◆部活動加入率の向上と活動内容のさらなる充実による学校全体の活性化を図る。	19	B				
		◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、集団行動のなかで社会性を養う。	20	B		B		
進	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導	◆3年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。また、個に応じた指導を	21	B				・学年部と情報共有を行いながら業務を進めることができた。進路ガイダンス等とLHR内で行う進路学習を効果的に結びつけるかが課題で

路 指 導	と援助を行う。	重視する。				B	ある。
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために説明会やガイダンス等を実施し生徒の希望の進路を実現させる。 ◆生徒の実態に即した進学補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用し、大学入試等に対応できるようにする。	22			B	・就職指導では、面談を繰り返し実施しきめ細やかな指導ができ担任と情報の共有を行った。3年4月までに就職に対する意識をいかに固めさせることができるか、第2学年までの取り組みを強化する必要がある。 ・補習について、各教科の協力で多く開講できた。授業・補習・家庭学習を結びつけ、より魅力あるものにする必要がある。 ・学年部の協力もあり模擬試験等、多くの生徒が受験した。分析も適宜行った。結果を進路希望達成の有効な資料にするべく学年部との連携が一層必要である。
人 権 教 育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にした教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとおして人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて自己と他者（社会）との関わりを考えさせる。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	24	B	B	B	・「いじめアンケート」実施と事後指導を担当団と協同して行えた。また、いじめアンケートに限らず日頃から生徒が困った状況を教職員に相談しやすい人間関係の構築ができていたと感ぜられる。 ・人権学習講演会や人権映画鑑賞等を通して人権意識向上を図れたが、生徒が日常生活のなかでのより高い実践力を育成できるような取組の必要性を感じている。
健 康 ・ 安 全 教 育	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導につなげる。 ◆保健委員会活動を通して、生徒自らが健康、美化活動などに取り組むよう指導する。	25	A		B	健康診断の未検者に対して、再検の機会を設け、受診させることができ、生徒自身の健康状態を高めることにつなげた。保健委員会は年間を通して水質検査やCO2モニターの活用に取り組んだ。文化祭展示では感染症予防に向けての展示も行った。教育支援会議を、まなび生活アドバイザー等の関係機関と連携し実施することができた。今後は、情報共有に留まらず、個に応じた指導計画を充実させていく必要がある。清掃活動は概ねできているが、校内美化に積極的
	◇教育相談を充実させる。	◆配慮や支援の必要な生徒の将来の自立を見据え、教育支援会議を通じた情報共有を促進し、個に応じた取組を学校全体として行う。	26	B		B	
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除を実施し校内美化と学習環境の整備を行う。	27	B	B	B	
			28	B	B		



開 発	指導の充実・発展に取り組む。	農業クラブ活動の中で主体的・対話的で深い学びを通して専門性を高め、地域社会と協働的に取り組む態度を養い、社会で活躍できる生徒の育成に努める。	37	B	B B	<p>施することができた。</p> <p>・観点別評価についての研修会を他校教員の参加も含めた実施を行い意識づけを行うことができた。しかし、専門学科の将来構想や学科の魅力発信など、今後に向けての取り組みなどについて十分に実施することができなかった。</p>
		◆専門学科の将来構想の方向性と観点別評価やICTの活用などの先行的、試行的な実施を通して、新しい時代に合わせた専門学科の在り方を検討する。	38	C		

学校学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桂高校は入試制度の改革もあり、近年大きく変わった。指導者の在り方によって学校、生徒は大きく変わる。新しく赴任される先生方を含めて、桂高校の良さを生かしながら引き続き改革を進めて欲しい。</li> <li>・専門学科の活動はこれまでの積み重ねがあり、結果も出ている。地域などでもっとたくさんの方に知ってもらおうとよい。</li> <li>・総合的な探究の時間など、決められたことだけではなく、新しい取り組みができています。小学生から自分がやってみたいこと、思うことを積み上げることが大切。</li> <li>・ICTの活用は先生方も大変だと思うが、子どもはわかっていることが多い。先生によってもスキルの差があり、一人ひとりの教員が準備を進めて欲しい。</li> <li>・子どもはやりたいことがあるから桂高校に来たのだと思う。自分がやらないといけないと思うからこそ伸びていく。</li> </ul>
----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色である自主自立の精神のもと、「桂プライド」を持ち、自ら学び、自ら考え、積極的に活動できる生徒の増加を図るための指導方法の改善。</li> <li>・新指導要領の着実な実施とともに、総合的な探究の時間等、新しく取り組んでいる教育内容の研究と充実。</li> <li>・普通科におけるコースの改編、専門学科における農場圃場・実習棟の環境整備を生かした教育内容の充実。</li> <li>・1人1台タブレット等のICT機器の利活用の充実を図るための教職員のスキルの向上。</li> <li>・学校の特色と魅力を、中学生とその保護者、地域住民にさらに理解してもらうための情報発信の充実と、在校生保護者への教育活動の積極的な情報提供。</li> </ul>
---------------	--